

助金を出しても、最後に残るのは重いつけだけになるのではないか。

①補助金を出すにあたり、経済効果を正確に把握し、NPO法人への投資的経費支出の妥当性を十分に検討されたか。

②基幹産業が農業のまちだが、スポーツツーリズムとどう融合させるのか。

③経済効果額と交流人口の拡大数は。

④人件費が始まりだが、将来的なNPO法人とのかわり。

高薄町長

①スポーツツーリズム協会は、町民有志で設立されたNPO法人であり、町民の力を取り入れながら、官民一体となって事業を進めていきたい。

②スポーツで人が動き、ツーリズムで人が動く、これらを融合したスポーツツーリズムの推進によって、交流人口の拡大を図り、観光・物産事業の振興に結びつけたいと考えている。



物産振興等、商業活性化の施策を関係機関と協議しながら取り組まなければならない

③同協会の事業計画では、今年度はイベントの計画はなく、特に経済効果の期待はできないが、次年度以降から事業が開始される予定で、5年後には道内の小学生・ジュニアユース・高校のサッカー大会などに延べ41チーム、バレーボールの大会に26チームなどを誘致する計画である。また、経済効果としては、町内での宿泊、食事や物産販売などの消費等を含めて、約2億円程度を目標に取り組む計画となっている。

④同協会への補助は、今年度及び事業を開始する平

成26年度としている。平成27年度については、事業の進捗状況により検討していきたい。

### 通学児童の安全確保への対策は

角川徳寿議員

「清水つ子見守り隊」の会議で会員から、清水町南1条通り西3丁目から5丁目の通学路について、冬期間、片側の歩道の除雪しか実施されておらず、除雪されている歩道側へ児童を横断させたいが、信号機も横断歩道もないことから、改善を求める意見があった。

昨年、町より公安委員会へ横断歩道の設置について、申請をしたとのことだったが、現状、まだ改善されていない。

町として、児童の安全確保のため、どのような取り組みを考えているのかを伺う。

高薄町長

今年度、公安委員会へ横断歩道の設置を再度要望しているが、まだ改善には至っていないので、今後も引き続き要望する。

改善されるまで、子どもたちの通学に支障がでないように、今年の冬から歩道の除雪をしっかりと実施して安全対策に努めていきたい。

これからも危険な箇所については、順次調査しながら改善していく。

### 本町におけるスポーツ・文化の振興と地域活性化戦略

西山輝和議員

町が支援しようとしている「スポーツツーリズム協会」の全体像が見えないうえ、実効性や根拠性がいまいきなことなど、現段階においては経済活性化の戦略としての具体性が乏しく、町民に理解を求められる状況にないのではな

いか。次の点を伺う。

①スポーツツーリズム協会設立の目的と同協会設立に至った経緯は。

②事業計画及び予算の具本性は。

③補助支援の意思決定に至るまでの手続きは。

④町の支援内容について、長期・短期的な見地から伺う。

⑤本町のスポーツ・文化振興について、町及び教育委員会の取り組みの現状や活動団体との連携はどうなっているのか。

高薄町長

①スポーツツーリズム事業推進による交流人口の増加については、町長選挙の公約で訴えてきた経緯がある。このたび、町民有志が呼応し、スポーツツーリズム協会設立に動いていただいたものであり、官民一体となって事業を推進していきたい。

②今年度は、次年度以降の事業に向けての準備作業となる。今後、同協会が運営を行っていくうえで、宿

泊施設の問題は、当面既存施設を活用し順次拡充をしていくことになる。

③この事業は、町長選挙の公約であり、役場内の各課との細部協議は特にっていない。同協会から要望書が提出された後、担当課に指示し、検討を加えて、今定例会での予算提案に至っている。

④同協会への補助は今年度から2年間と考えており、平成27年度以降については、事業の進捗状況を見ながら、助成すべきかどうかを判断する。

⑤関係機関や団体との協議は今後必要と思われる。同協会から詳細な計画等が示された後、協議していくことになる。

三澤教育委員長

⑥教育委員会では、スポーツ振興において、それぞれ計画に基づき、事業の実施や施設管理・運営を行っており、具体的な事業の実施にあたっては、関係団体との連携を図りながら取り進めている。